

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【仲本小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	算数では、除法や図形、社会での語句理解等についての系統的な復習と習熟を図る必要がある。朝の習熟を図る時間にICT等を用いた定期的な指導を取り入れることを計画に入れる。それに伴って、指導技術の向上についても引き続き研修を継続していく。さいたま市学力状況調査で「算数の勉強は好きですか」の設問に対する肯定的な回答が80%に届かなかったので、次年度の課題としたい。	
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査の結果からとらえられる課題も心まえ、算数や社会では資料を基に考えをまとめる活動を授業の中で繰り返し取り入れていきたい。また、相手の話を聞いて、自分の考えをまとめ、相手に伝えるスキルも高めていく。そのためにも学校課題研修等では、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習をさらに進める等、学校全体で研究する必要がある。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 全体的には高いが、学力差が大きいため、支援を必要としている児童が一定数いる。</p> <p><指導上の課題> ICT環境の活用について不安を感じている児童や教員が少なくない。</p>	⇒ ・金曜日の「学力向上タイム」を有効にノートやタブレットを状況に応じて柔軟に用いる。【学校評価における「勉強がわかる」に対する肯定的な回答が85%以上】 ・教員のICTスキルを高めるために、校内研修で計画的に活用研修に取り入れ、教科指導に生かす。【「学びの指標」のICTの活用スキルが校内で昨年度よりポイントアップしている。】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 学力差が大きく、記述で無回答も見られる。</p> <p><指導上の課題> 児童同士の話し合い活動において間違った考え方を正しいものと捉えてしまうことがある。</p>	⇒ ・学校課題研修を生かし、自分の考えや思いを書くことについての支援を図る。【さいたま市学力状況調査での無解答率を減少させる。】・児童同士の話し合いの取り入れ方や方法等、学校全体で研修する。【さいたま市学習状況調査主体的で深い学びに対する肯定的な回答が90%以上】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	学校評価における「見通しをたて、ふりかえりを行い、分からなかったところをもう一度やり直したり、分かったことをもう少しやったりできた。」に対する児童の回答が93%であった。また学期末の臨時的な研修をはじめ、学校課題研修ではICTを用いた学習内容を取り入れることで、学校全体のICTでの指導技術の向上を図ることができた。
思考・判断・表現	A	思考に関する問題において、ほとんどの学年で無回答率がゼロであった。【さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた」、「授業で学んだことを、他の学習で活かしている」について肯定的な回答が、各学年90%以上であった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、主語・述語の関係が問われる問題で課題がみられた。文中に複数の主語が出てくる場合の述語の捉えに不安がある。「だれが」、「どうした」のかしっかりと捉えて、話の内容を正確に読み取る必要がある。算数では、分速を求める問題で課題がみられた。時速・分速など、単位が変化する場合でも対応できる力を付けたい。問題が解けた時に他の解答方法を考えるなど、主体的に取組み、算数の楽しさを感じられるようにし、令和6年度さいたま市学習状況調査で「算数の勉強は好きですか。」の設問に対し、80%を超えるようにしたい。またどの教科においても解答がはやくできるように、ICTなどを用いて技能のスキルアップを図る。	
思考・判断・表現	算数では空間を認識する力に課題がみられた。球が入る立体の体積を求める問題の正答率が低かったことから、立体同士を関係づける活動について学習の中で触れていく必要がある。また各教科において、多くの情報や他の人の感想などを統合したり、正しく読み取ったりする力の育成、自分の考えや感想を伝える力の育成を図ることが必要である。加えて、この調査結果の無解答率を見ると、設問の後半に行くほど増加している傾向にある。限られた時間の中で、自分の考えをまとめる活動を、さいたま市が取り組んでいる「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習を通し、継続して取り組んでいきたい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、全体的に市の平均を上回っていた。その一方算数では、除法の計算、グラフの読み取りや図形の定義、かさの読み取りなどが複数の学年において、正答率が低かったり無回答がみられたりした。また社会では、5学年は偏差がどの設問も高く、無回答もなかったが、6学年では4年や5年で既習した内容についてが定着が不足しているところが見られる。理科では、電気の通り道など、語句の定着が課題として挙げられる。	
思考・判断・表現	全体的には高いが、国語では考えをまとめる問題、特に相手の話を聞いて自分の考えをまとめる問題において無回答率が高かった。算数では、問題場面を把握し、数や形の計算をすることについて課題がみられる。社会では、無回答はなかったが、年表を手掛かりとして考える問題では正答率が低かった。理科では他の教科と比較すると、全体的な正答率が低い。特に、実験の結果を見通して実験を構想する問題において課題が残る。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	・学校課題研修の中で、模擬授業を行い、実践の中でのICT活用方法を学び合った。 ・学期末や学期始めの時間を使って、ICT教育部主導で新しいアプリ等の活用方法について研修した。	変更なし
思考・判断・表現	B	・全国学力・学習状況調査の結果に一定数の無解答がみられることに加え、時間内に自分の考えをまとめる力を付けるなど、引き続き伝える力の育成に取り組んでいく。 ・学習したことをつなげたり、さらに深く学んだりする力の育成を図る。	・各教科に対して主体的に取り組んでいる。【さいたま市学習状況調査「学習が楽しい」に対する肯定的な回答80%以上】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)